

4 ベクトル場の発散とラプラシアン

1 微分演算 $\operatorname{div} \mathbf{A} = \nabla \cdot \mathbf{A} = \frac{\partial A_x}{\partial x} + \frac{\partial A_y}{\partial y} + \frac{\partial A_z}{\partial z}$ が、発散の意味をもつことを示せ。また、 $\mathbf{A} = (x^2z, -2y^3z^2, xy^2z)$ のとき、点 $(1, -1, 1)$ における \mathbf{A} の発散を求めよ。

2 $\nabla \cdot (f\mathbf{A}) = (\nabla f) \cdot \mathbf{A} + f \nabla \cdot \mathbf{A}$ が成り立つことを証明せよ。また、 $\mathbf{r} = (x, y, z)$, $r = |\mathbf{r}|$ とするとき、 $\frac{\mathbf{r}}{r^n}$ の発散が 0 となるような n の値を求めよ。ただし、 $r \neq 0$ とする。

3 $\operatorname{div} \operatorname{grad} f = \nabla \cdot \nabla f = \nabla^2 f = \Delta f$ とするとき、 $\nabla^2 = \Delta = \frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}$ であることを示せ。また、 $r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ のとき、 $\Delta \left(\frac{1}{r} \right)$ を計算せよ。

4 スカラー関数が r のみの関数 $f(r)$ であるとき、 $\Delta f = \frac{1}{r^2} \frac{d}{dr} \left(r^2 \frac{df}{dr} \right)$ となることを示せ。また、これを用いて問3の式を計算せよ。